



# 本を持って外へ出かけよう！

いつもやよい図書館をご利用いただきましてありがとうございます。  
 新年度になって1ヵ月、新しい生活に慣れてきたころでしょうか。少しお疲れでしたら、図書館でゆっくり雑誌や絵本を眺めるのもいいですよ。今月号より図書館のページを大きくリニューアルしてみました。本や地域の情報を増やしましたので、どうぞご利用ください。また、館内も新しい展示コーナーを作りました。今後も楽しい書架作りを目指してまいりますのでご期待ください。

館長の今月の1冊 『孤高の名家朝吹家を生きる 仏文学者・朝吹三吉の肖像』石村博子著 角川書店  
 芥川賞作家朝吹真理子さんのおじいさんにスポットを当てた本。天才は突然出現するわけではないんですね。

日差しの気持ちいい季節となりました。こんな時は皆さん外に出掛けたくはないでしょうか？ 今回の読書の窓では、そんな外に出たいという皆さんの気持ちを後押しする、または外で読みたくなる本を紹介します。いつも家の中で本を読むという方、たまには外で本を読んでみませんか？

『ちょっと山へ行ってきました』

みなみらんぼう/著  
 リヨン社



「登山」というとつらく厳しい道のを想像する方も多いのではないのでしょうか。この本では自称「万年初心者」のみなみらんぼうさんが山歩きの楽しさと、花や川、星や動物、そして人との出会いを教えてください。各章のコラムでは登山グッズや天気について詳しくアドバイスしてくれます。「ちょっと山へ行って」みたくなる1冊。

『神様』

川上弘美/著  
 中央公論社



くま、妖精、神様？ 季節ごとに現れるさまざまな生き物たち。それぞれが私たちに何か大切なことを教えてくれる大人のファンタジーです。あなたのまわりにも神様がいるかもしれません。9つの短編なので、ちょっと一息つきたい時に一編ずつ読んでみるのもおすすめです。

## 俺の一冊・私の一冊

中央本町地域学習センター・やよい図書館で働くスタッフが、それぞれ自信を持っておすすめする1冊をご紹介します。みなさん、是非読んでみてください！！

『もぐらバス』佐藤雅彦（原案）/著 うちのますみ/文・絵 偕成社

モグラ・バス・たけのこ・料理・仲間達・起承転結があり明快な本が好きな自分としては終わりが無い世界に飛び込んだ感覚・・・なんて事言いながら、コレはこどもの絵本だ。こどもと一緒に本屋へ行ったたり、図書館で借りたりする。コレもその中の1冊だ。

地下にバスが走っている、停留所もある・・・このトンネルはモグラによって作られたのか？どのくらいの期間がかかったのか？ バスはどうやって入れたのか？ ガソリンで走っているのか？ 排気ガスが充満して・・・など、大人になると邪推するだけして素直に楽しもうとしないねまったく。さて、たけのこはどう関係してくるんだ？ という疑問に答えましょう。ズバリ、「生えてくるんだよトンネルの中に！」「そりゃそうだよ土の中なんだから！」という掛け合いを妻としながら、子どもが声に出して楽しそうに読んでいる。ちなみに、読まないと言われないが、たけのこが大きいのではなく、モグラ達が小さいのだと分かった時に、邪推していた疑問の一部が解明される・・・と思う。いや、やっぱりたけのこが大きいんじゃない？

## 私の一冊（まるちゃん）

『南総里見八犬伝（一）～（十）』曲亭馬琴/作 岩波書店

みなさん、『八犬伝』をご存じですか？ 同じあざと玉を持った8人の若者（八犬士）の活躍を描いた大作で、江戸時代に書かれたお話です。ドラマや人形劇で知っている、という方も多いかもしれません。原典は、全106冊の長いお話なので、ダイジェスト版もたくさん作られています。では、そんな『八犬伝』のラストはご存じですか？ 八犬士のはたらきで国は平和になり、8人の犬士は8人のお姫さまと結ばれてめでたしめでたし・・・ではなく、じつは続きがあるんです！ 気になった方はぜひ原典を読んでみてください。難しい考証の部分などは、読み飛ばしてしまっても大丈夫ですよ。

ところで、「作者は滝沢馬琴じゃないの？」と思った方、・・・鋭いですね。「曲亭馬琴」というのはペンネーム、「滝沢」というのは本名です。江戸時代の本には「曲亭馬琴」と書かれているので、「曲亭馬琴」のほうがより正確だと言えるでしょう。

『新・おくのほそ道』

俵万智・立松和平/著  
 川出書房新社



『おくのほそ道』。国語の授業で学んだという方も多いのではないのでしょうか。この本では芭蕉の俳句、俵万智の短歌、立松和平のエッセイとともに芭蕉の足跡をたどります。俳句や短歌が苦手という方でも、写真が豊富で眺めるだけでも芭蕉が旅をした場面を目で楽しむことができます。『おくのほそ道』初心者の方におすすめです。

『クマのプーさん』 A. A. ミルン/作 石井桃子/訳 岩波書店

ディズニーのプーさんはよく知っていても、原作を読んだことのある方は少ないのではないのでしょうか。石井桃子さんの翻訳で、プーさんのほのぼのした世界観がとてもよく伝わってきます。E・H・シェパードの挿絵も可愛らしく、大人が読んでも楽しめます。プーさんの森で、愉快的仲間たちとのんびり寝そべて過ごしてみたくありませんか？



『クマとうさんのピクニック』 デビ・グリオリ/さく 山口文生/訳 評論社

こちらクマさんのお話です。少しおっちょこちょいなクマとうさん。わんぱくな子どもたちとのピクニックはとっても大変！ さて、とうさんは良いところを見せられるのでしょうか？

